

# 新美南吉と詩

Nankichi × Step

南吉の詩は童話に勝るとも劣らず魅力的。地元を中心に活躍する現代の若手作家たちと詩をコラボレーションしていきます。



## 月の角笛

月が角笛  
夜ふけにふいた。

ぼうぼうぼうよ、  
ぼうぼうぼうよ。

犬が野原を  
めぐってないた。

ぎりり、時計のねじをばまいて  
牧師が階段、ことことおりた。

月が角笛  
とおくにふいた。

ぼうぼうぼうよ、  
ぼうぼうぼうよ。

牛があくびを  
あわわとやった。

からら、シャレーの窓をばしめて  
ああ、ああ、遠いと乳屋がいった。

足立 明里 イラストレーター・画家  
動物を通して傷みや切なさなど人間について表現できるような作品を目指している。展示、グッズ販売など愛知県を中心に活動中。  
<http://adachi-acari.moo.jp/>

\*絵について\*

この詩はぼうぼう、ぎりり、ことこと、あわわ、かららと静かな夜にふざわしい音が心地よく流れています。夜のみみずの中にあるワクワクやきらきらが表現できればと思いました。

### 新美南吉



にいみなんきち  
(1913-1943)

大正2年7月30日、愛知県知多郡半田町(現・半田市)に生まれる。幼くして母を亡くし、養子に出されるなど寂しい子ども時代を送る。旧制半田中学校卒業後、「赤い鳥」入選を契機に北原白秋や巽聖歌の知遇を得る。昭和18年、結核のため29才で世を去る。

### 解説

「月の角笛」は三日月なのだろうか。なかなかシャレた作品だ。直接には何の関係もないはずの夜空の月の角笛と、地上の野原の犬と、人間(牧師)の三者が見事なバランスで配置され絶妙な詩的世界を創り出している。作品の持つ新鮮なイメージとともにこの作品の中では「ぼうぼうぼうよ」「ぎりり」「ことこと」といった音が詩の純度を高めている。

夜明けを迎えようとしている二連では、のんびりとした牛のあくびに導かれて、乳屋

の庶民的な日常生活が暗示される。「あわわとやった」牛のあくびと「からら」としめる窓の音とが詩的世界を面白く、また澄み切ったものになっている、とあっていいだろう。

前新美南吉記念館館長

矢口 栄 さん

解説者

半田市、知多市、東浦町の小中学校勤務を経て'04年から'11年まで新美南吉記念館館長を務める。著書「南吉の詩が語る世界」(一粒社出版部)「子どもたちに贈りたい詩」(教育出版センター)「新しい詩の創作指導」(共著・明治図書)ほか。

### おしらせ

平成25年度  
愛知県子ども読書活動推進大会  
【日時】11/9(土)12:45~17:00  
【場所】半田市福祉文化会館(雁宿ホール)講堂  
【定員】300名(先着順、無料)。  
申込み方法は、愛知県生涯学習課(<http://www.pref.aichi.jp/0000054336.html>)のホームページから用紙をダウンロードし、ファックスまたはメールにて申込み。  
【主催】愛知県教育委員会・愛知県子ども読書活動推進協議会  
子どもたちが読書の楽しさを知るきっかけとして、童話の果たす役割は大きいのではないだろうか。新美南吉の生誕100年を記念し、童話をとらえて子ども読書活動推進の方策について考える。基調講演は絵本作家のかずや昌宏氏。